

大垣西濃信用金庫は、女性職員向けの防犯研修を大垣市恵比寿町の大垣西濃信用金庫大信ホールで開き、職員42

人が大垣署員から被害に遭わないための心構えや護身術を学んだ。

(古家政徳)

大垣西濃信金が防犯研修

女性職員、護身術を特訓



女性の活躍推進により渉外係として女性職員が外回りを担うケースが増えているほか、かねてから防犯研修を望む声が寄せられていたため、初めて企画した。

外回り、夜道 不審者対策

つかまれた腕を振り払う方法を練習する女性職員たち＝大垣市恵比寿町、大垣西濃信用金庫大信ホール

池田支店で渉外係を任される工藤沙和子さん(24)は「基本は一人行動で、自転車で移動することがほとんど。怖い思いをしたことはないけど、秋冬は午後6時を過ぎると暗いからちょっと不安だった」と話し、勉強になった。110番の話など心強く思え、今後に生かしたい」と表情を緩めた。

講義では同署生活安全課の亀山真弘課長が「(女性を襲う)犯人はよく観察している。一人のところを狙ってくるが多く、スマートフォンに夢中になっていたりするとターゲットになりやすい」と警告。人通りの多い道や明るい道を選んで歩くよう諭した上で、「いつ自分の身に振りかかってもおかしくない状況。常にすぐ逃げ込める場所を考えておくべき」とした。その後、署員2人が護身術を手ほどき。腕や胸元をつかまれたときのほどこき方、背後から急に抱きつかれたときの逃げ出し方などを指導。万一の際は不審者に気づかれないようスマホを耳に当てずに110番して小声で助けを求めれば位置情報なども併用しながら警察官が駆け付けられることも丁寧に説明した。

講義では同署生活安全課の亀山真弘課長が「(女性を襲う)犯人はよく観察している。一人のところを狙ってくるが多く、スマートフォンに夢中になっていたりするとターゲットになりやすい」と警告。人通りの多い道や明るい道を選んで歩くよう諭した上で、「いつ自分の身に振りかかってもおかしくない状況。常にすぐ逃げ込める場所を考えておくべき」とした。その後、署員2人が護身術を手ほどき。腕や胸元をつかまれたときのほどこき方、背後から急に抱きつかれたときの逃げ出し方などを指導。万一の際は不審者に気づかれないようスマホを耳に当てずに110番して小声で助けを求めれば位置情報なども併用しながら警察官が駆け付けられることも丁寧に説明した。